

京成本線
荒川橋梁のかけかえなど
区部東部低地帯の
(葛飾、足立、江戸川、江東、墨田)
水害対策を問う



本会議代表質問 (2020年2月27日)

和泉なおみ都議会議員のこの1年間の議会活動のうち、水害対策について取り上げた質問を特集しました。
内訳はつぎのとおりです。

- 1、2020年2月27日
都議会本会議 代表質問
- 2、2019年6月
都議会第2回定例会 文書質問
- 3、2019年10月23日
決算特別委員会 質疑

くらし・福祉の都政めざし
日本共産党都議会議員
和泉なおみの都政報告

防災対策特集



日本共産党都議団報告 2020.3
葛飾版 発行：日本共産党東京都議会議員団
新宿区西新宿 2-8-1 ☎(5320)7270

(都政へのご意見、ご要望をお寄せください)

和泉なおみ都議は、2019年10月23日、都議会決算特別委員会で、住民避難に役立つ河川監視カメラの増設をもとめて質疑を行いました。

河川監視カメラの役割が重要になっています

和泉委員 私自身が今回の台風で国交省が設置している河川監視カメラを何度も見て、荒川と中川の水位を確認しました。

川に見に行くというのはとても危険な状態の中で、水位が今どうなっているかの不安をこの監視カメラが解消してくれ、家で水位をチェックしながら、非常用に用意したものを二階に上げるとか、簡易水の工法の準備をするなどができました。一方で、今回の台風被害でも、河川の状況を確認しに外に出たところから被害が発生した例が数多くありました。それだけに監視カメラの役割は、いよいよ重要になっていると思います。

都は監視カメラの画像をホームページで公開

小林河川部長 都は、河川の水位や監視カメラの画像などの情報を東京都防災総合情報システムにより収集し、監視するとともに、ホームページで公表をしております。

中川の都管理区間は、なぜ洪水予報河川になっていないのか

和泉委員 中川は、国管理区間は洪水予報河川というふうになっていますが、葛飾区高砂橋から下流については、都の管理になっていて、洪水予報河川にも、それから水位を知らせる河川にもなっていません。なぜ同一の河川なのに都管理部分については洪水予報河川になっていないんでしょうか

中川は近年、浸水被害が出ていないので指定せず

小林河川部長 中川は、葛飾区高砂橋付近を境に上流の土堤区間を国が、下流の特殊堤等区間を都が管理しております。洪水予報河川は、水防法に基づき、河川管理者がおのおのの管理区間につい

て指定いたします。

都は、近年甚大な浸水被害が発生している河川につきまして、洪水予報河川、または水位周知河川に指定しております。

洪水予報河川以外にも監視カメラを設置すべきでは

和泉委員 河川監視カメラは、河川の水位の情報を提供することで、都民が災害に備えることができ、防災、減災に大きく寄与するものだということを冒頭にも私は申し上げましたとおり実感しています。洪水予報河川などを監視する場所だけでなく、もっと多くの場所に設置すべきではないか。

都内全域に河川監視カメラ設置を検討する

小林河川部長 河川監視カメラの画像を公開することは、河川の水位情報を視覚的に伝えることで、都民が避難行動の判断等に活用する上で有効であり、既に都内全域を対象といたしまして、監視カメラ等観測機器の設置について検討中でございます。

区市町村のホームページで見られるようにすべきでは

和泉委員 災害時に多くの方が基礎自治体のホームページを見るわけです。水防災システム改修が進んでいるということですが、区市町村のホームページのトップページですぐに見られるように区市町村と連携して進めるべきだと考えますが、いかがでしょうか。



堀切船着場のカメラ映像

各自治体のホームページに掲載します

小林河川部長 本システムのリンクを各自治体のホームページに掲載し、住民に周知していただくよう、呼びかけてまいります。

区部東部低地帯の水害対策を急げ

和泉なおみ都議は、2020年2月27日、第1回定例都議会で、日本共産党都議団を代表して質問にたち、新型コロナ肺炎への対応、高齢者福祉の充実、都立病院の独立行政法人化問題など重要課題について質問しましたが、そのうち葛飾区など区部東部低地帯の水害対策についてとりあげた部分を紹介します。

和泉都議

近年の異常気象のもと、

区部東部低地帯をどう守るのか

地球温暖化に伴い、台風や豪雨による災害がふえ、被害が大きくなっています。昨年台風19号では、京成

が

本線の葛飾区側は、鉄橋の橋桁の下1・2メートルのところまで荒川の水位が上がりました。葛飾、足立、江戸川、江東、墨田の区東部低地

帯は、多くが海拔ゼロメートル以下で、浸水が想定される地域は人口250万人に及びます。

近年の異常気象のもとで、この住民の命、財産を水害から守るため、避難を中心としたソフト対策はもちろん、さまざまなハード対策の強化が求められていると思いますが、知事の認識を伺います。

知事答弁

最大級の地震・高潮に対応して対策をすすめている

東部低地帯は、地盤高が満潮位より低いゼロメートル地帯が広く分布しており

まして、高潮や地震により一たび水害が発生いたしますと、広範囲での浸水被害

が想定されております。

このため都は、東部低地帯に暮らす人々の避難等に資するソフト対策とともに、国内最大の被害をもたらしました伊勢湾台風級の

高潮に対する防潮堤等の整備や、想定されます最大級

の地震に対しましての水門等の耐震、耐水化などの

ハード対策を進めてまいり

ました。

今後とも、こうした取り組みを着実に進めまして、

東京の安全・安心を万全なものとしてまいります。



低地域帯の水防訓練は重要です。葛飾区合同水防訓練を視察する。

注目をあつめた和泉なおみ都議の代表質問

水害対策以外の和泉都議代表質問の
主なポイントは次のとおりです。

新型コロナウイルス対策について

ウイルス検査を広く、早く実施できるようにすることが急務。PRC検査体制を抜本的に拡充強化することを国に要請すべき。

カジノ誘致について

知事選の争点になるのを恐れて、いつまでも「メリット・デメリットの検討を続ける」としか言わないのは、都民をあざむくもの。新年度予算に調査費を計上しているが、やめるべきだ。

高齢者福祉の充実について

新年度予算案では、介護施設の整備費補助が軒並み減額となっている。「介護離職ゼロ」は、知事を中心公約ではなかったのか。

都立・公社病院の
独立法人化について

その狙いは、不採算医療の切り捨て、医療への支出削減、行政的医療の後退、患者負担増、職員の労働環境悪化が明白。きつぱりと中止すべきだ。

水害対策はまったなし! 直ちにできるところから

和泉都議

急ぐべきは京成本線の
荒川橋梁の架け替えです

急がれているのは、京成本線の荒川橋梁の早期かけかえです。

荒川の堤防は、高度成長期の地下水のくみ上げによる地盤沈下で低くなりました。その後、国は堤防のかさ上げをしましたが、荒川橋梁部分の堤防は、周辺の高さより3・7メートル低いまま取り残されています。



荒川橋梁（堀切橋の下を鉄橋が）

増水時には水が堤防を乗り越え、堤防を掘り崩し、決壊させる恐れがあり、江東五区を含む七つの区の区長も先月、国に対して要請を行っていました。都としても、かけかえの速やかな実施を国に求めるべきです。知事、いかがですか。

都知事

橋梁かけ替えを

国に要望していく



京成本線の荒川橋梁は、明治の末期から高度成長期にかけての地盤沈下や堤防のかさ上げによりまして、周辺の堤防より低くなっていることから、現在、国がかけかえ事業を行っております。

都におきましては、本橋梁のかけかえなど、大川川の氾濫を防止する治水対策の着実な推進を国へ要望いたしております。

引き続き、東部低地帯の江東五区からの要望も踏まえまして、事業の着実な推進を国に求めてまいります。

荒川橋梁部の堤防の強化をしてほしいというのは、地域の切なる願いです。

和泉都議

何百年もかかる

「スーパー堤防」ではなく

堤防強化こそ緊急課題です

洪水が最も大きな被害をもたらすのは、堤防を越えた水が堤防決壊を引き起こす越水破堤であると、水防関係の専門家が共通して指摘しています。

しかし現在、国が越水対策として進めているのは、いわゆるスーパー堤防です。スーパー堤防は、地域で開発が行われるときに整備される仕組みであるため、開発の計画がなければ整備されず、完成までには何百年という歳月を要し、最近の異常気象に対する水害対策としては間尺に合いません。

堤防強化が緊急課題であり、有効な強化策は、堤防の頂上部、のり面、のり尻の三点を補強することです。かつては国土交通省も研究を進め、実際に全国九つ

都建設局長

国が堤防に関する技術検討会を設置
方向性を注視して要望する

の河川で実施された経験があります。その後も幾つかの工法が提案されています。国に、必要な検証や研究も行いつつ、堤防強化を急速に進めるよう求めるべきです。なかでも、荒川橋梁は、架け替えに着手しても、完成までに一定の時間を要します。それまでの間、現在の



荒川堤防のり面を調査する

京成本線の荒川橋梁部周辺における堤防強化に対する都の対応についてでございますが、国は、台風第十九号において

日本各地で堤防の決壊により甚大な被害が発生したことを踏まえ、今月、有識者から成る河川堤防に関する技術検討会を設置いたしました。



その検討会の中で、堤防決壊等の要因を分析し、今後の危機管理として堤防強化の方向性が検討されております。

引き続き、検討会の動きを注視していくとともに、荒川橋梁のかけかえの着実な推進を国に求めてまいります。

西新小岩 中川左岸 スーパー堤防より背割堤(中堤)が先決ではないか

本会議文書質問

和泉質問

西新小岩の中川左岸スーパー堤防計画 国がなぜ、都管理区間に計画と発表？

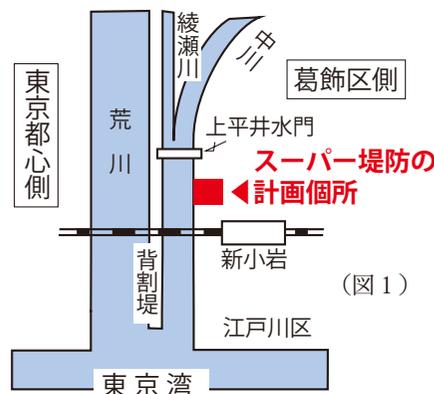
葛飾区の中心部を蛇行しながら流れる中川は、高砂橋から下流は、上平井水門から下流の右岸を除き都の管理区間となっています。

都は、平成24年12月に策定した東部低地帯の河川施設整備計画な

どによって中川の堤防の耐震強化と河川環境のために中川のスーパー堤防・緩傾斜型堤防の整備を進めていくとしています。(図1)

西新小岩地区については、蔵前橋通りを挟んで都型のスーパー堤

防等整備事業の具体化が進められようとしています。ところが、2019年1月、都が現にスーパー堤防等整備事業計画を進めている地区より、わずか200mほど上流の都の管理区間に、国の高規格堤防整備事業が発表されました。なぜ突然のように都の管理区間に国が割り込んで計画を発表したのでしょうか。



(図1)

都答弁

超過洪水対策のために中川に荒川のスーパー堤防をつくる

国の高規格堤防整備事業は、人口等が高密度に集積した低平地等を抱える大河川で堤防の決壊に伴う甚大な被害の発生を回避するため、超過洪水対策としてまちづく

りと一体となって幅の広い堤防を整備するものです。上平井水門より下流の中川は、荒川と並行しており、荒川で計

画規模を超える洪水が発生した場合、都管理の中川の堤防を越えて氾濫することも予想されるため、国は中川の左岸側で荒川の高規格堤防を計画

しています。

規格堤防整備事業について、

平成31年(2019年)1月には、西新小岩地区の高規格堤防整備事業について、関東地方整備局事業評価監視委員会に諮り、その後事業家

和泉質問

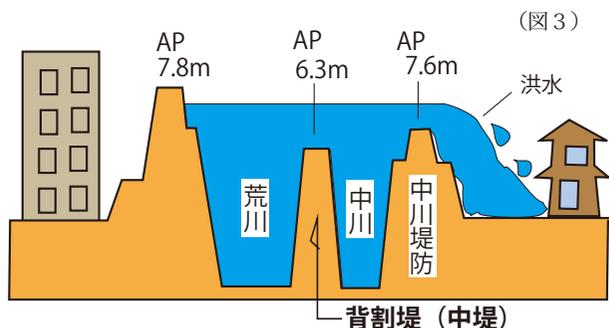
それなら背割堤(中堤)を高くすることが先決ではありませんか

国の高規格堤防をつくる理由が、荒川の超過洪水対策のためであり、超過洪水とは、荒川の水位が背割堤を越えて中川に流れ込み、中川左岸の

都答弁

中堤は、国の所管なので、整備については国の方針で実施

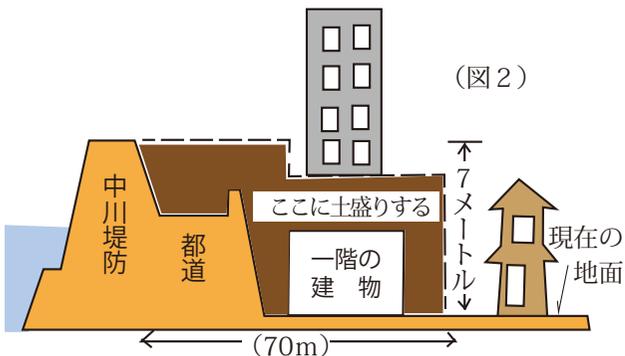
荒川の中堤は、洪水時に水位が異なる荒川と中川の合流点を約7キロメートル下流側



(図3)

ら生じる上流の水位上昇を抑制するために設けられています。(図3)

中堤は、国の所管となっており、整備については国の見解・方針により実施することになっています。



(図2)